

DIGITABLE 第 30 回勉強会レポート

2009 年 11 月 21 日 於：亀戸文化センター（第一・二会議室）



(レポート撮影：鈴木利男 会員)

(午前) 初級講座② 「デジタルカメラの設定」

井村奈加子 講師

デジタルフォト基礎講座 <実践編>7 「RAW 画像と調整 2」

高木 大輔 講師

事例研究 「インターネットでの写真サービスの現状」

白澤 洋一 会員

Photoshop 研究講座 「モノクロ印刷の重ね刷り」

平野 正志 講師

DIGITABLE 写真技術勉強会 (HOME) <http://www.digitable.info>

(午前) 初級講座② 「デジタルカメラの設定」

担当：井村奈加子 講師

先月より始まった初級講座の二回目が、午前 10 時より三名の参加者（一人欠席）を迎え、同一会場の第一会議室で行われた。

「デジタルカメラの設定」をテーマに、デジタルカメラでの画像生成のしくみや三原色の原理、画像解像度やサイズ、圧縮モード、ISO 感度の問題などが、井村奈加子講師により詳しく解説された。

尚、勉強会と前後して江東区区報に案内が掲載されるなどして、新たな参加希望者や問い合わせがあった。次回 2010 年 1 月 16 日からは、それらの方から要望のあった PhotoshopElements の入門講座を加え開催の予定である。



井村奈加子講師と初級講座のもよう

デジタルフォト基礎講座 <実践編>7
RAW 画像と調整 2

担当：高木 大輔 講師

今月は汎用 RAW ソフトによる選択、および調整の実際について解説する。

○フォトのつばさ Pro

一部のデジタルカメラ・ヘビーユーザーに高い支持を得ているこのソフトの特徴は、なんといっても表示や画面切り替えなどの動作が素早いことにある。1000 万画素を超えるような画像も一瞬で表示する上、次の画像への切り替えも瞬時に行える。キーボードのカーソルキーを押すと次々と画像が切り替わっていく様子は、まるでアニメーションを見ているかのようだ。

画像の高速表示に対応するため、まず低解像度の粗い画像を表示したうえで、そこから間を置いて高解像度の画像を表示するビューワーも多いが、本ソフトの場合、いきなり高解像度の画像を表示され、大量の画像を次々と見ていく際もストレスがない。



「フォトのつばさ Pro」サムネールを W クリックすると 1 つの写真を大きくするローカル表示が現れる

○ SILKYPIX Developer Studio 3.0 および Pro

当会でも愛用者の多い SILKYPIX だが、最大の特徴は純国産のソフトとして日本人好みのツボを抑えたフロー設計と、外国産ソフトでよく感じられる“翻訳もの”のような用語やメニューが分かりにくいといったストレスが無いことだろう。デジタル中級者ならマニュアルフリーで、導入したその日から使いこなすことができる。

非破壊編集主義のパラメータファイルによる現像方式も、何度でも納得のいくまで処理を重ねることが可能で、現像結果もきめ細かで美しい階調の仕上がりが得ることが出来る。ブラウザーソフトとして使うには少々遅いの
が難点で、他のブラウザーや「フォトの翼」のような専門ソフトで選別の“荒選り”を行うと良いだろう。○

SILKYPIX 調整のポイント

色調の仕上げには SILKYPIX の特徴であるカラーの選択を利用する。商業写真では「記憶色 1 および 2」、「美肌色 3」などを利用することが多いが、ネイチャーやスナップなどの作品づくりではフィルムシミュレーションモードの活用が威力を発揮する。ここでは「フィルム調 V1」を選択、自然な色調になった。

「回転・デジタルシフト」では大型カメラ並みのパース補正も可能で、建築や商品の写真にはたいへん便利だ。他にも広角レンズで目立つ周辺光量やディストーションの調整、白とびを抑えるダイナミックレンジの拡大なども大変分かりやすく便利に使える。



高木大輔講師



SILKYPIX Pro の調整画面



Lightroom2 の調整画面

○ Adobe Phoshop Lightroom 調整のポイント

「カメラキャリブレーション」について触れておく。Lightroom ではサポート対象のカメラに対してカメラプロファイルを用意して、機種に適した色再現を行っている。これらのカメラプロファイルは Adobe Camera RAW 用に開発されたものと同じだが、さらに微調整を行ってプリセットとして保存することが出来る。少々マニアックだが、使い込み次第で SILKYPIX の「フィルムシミュレーション」のような独自の設定を作ることも可能だと思う。

○ RAW 現像まとめ（各汎用ソフトを比較する）

RAW 現像まとめとして各汎用ソフトでの現像結果を比較しておく。

CameraRAW での現像はややあっさりしてフラットで、明暗の中間領域が厚くなる傾向だ。色別の調整など、細かい調整の追い込み作業はは展開後 Photoshop 本体にゆだねる方式と思われる。調整者の癖にもよるだろうが、全般に黄味が強い印象も受ける。

SILKYPIX では経験値では比較的素直な“写真らしい”印象が得やすいように思える。特に作例 2 ではフィルムシミュレーションモードを使用している効果もあるだろう。ホワイトバランスは各ソフトで同じように調整しているつもりだが、比較すると全般にやや赤みが強いかも知れない。

Lightroom ではコントラストが高く“明快な”上りの印象が強い。開示した小サイズでは一番くっきりと見えるのではないかな？ こちらも並べて比較すればの話だが、やや青味が強くなりがち印象は受ける。

(コメントや意見の追加をお願いします)

○ RAW 現像まとめ（各汎用ソフトを比較する）



図 126 作例 1 : CameraRAW で現像

図 127 作例 1 : SILKYPIX で現像

図 128 作例 1 : Light Room で現像



図 129 作例 2 : CameraRAW で現像

図 130 作例 2 : SILKYPIX で現像

図 131 作例 2 : Light Room で現像

プロカメラマンもアナログ（フィルム）写真からデジタル写真への移行が進み、デジタル写真を用いている割合は93%と報告されている。デジタル化により身近となったインターネットでの写真サービスの現状について報告する。

① Blog

Blogの登場により、不特定多数の人物向けに写真を公開することが容易化してきた。

②オンライン写真公開サイト（個人向け）

オンラインでの写真の保管や閲覧も普及してきました。ただし、主に個人向けである。

③モバイル機器との連携

モバイル（iPhoneなど）との連携も始まっている。

④写真愛好者向け展示 Web サービス

キャノンフォトサークル会員向け（閲覧自由）

⑤ストックフォト

ストックフォトも普及してきた。

⑥イベント写真販売

イベントなどでの写真撮影後、デジタル写真の活用方法として、フォトアルバム（婚礼用など）やインターネット上での写真公開・販売が普及し始めている。

結婚式や学校行事などのイベントでは、プロカメラマンによりスナップ写真が大量（例えば一イベント1000枚以上）に撮影されることが多い。これらのイベントで撮影されるスナップ写真には、

- * 「シーンごとに意味がある」
- * 「公開・販売に適さない写真が含まれることがある」と言った特徴を有する。

⑦婚礼向け Web 写真公開・販売サービス

- * 写真単独サービス
- * 参加者撮影
- * 業者撮影
- * 写真以外を含む総合サービス
- ※新郎新婦がアルバムに掲載する写真を選ぶサービス（ワタベウェディング社フォトセレクト Web サービス等）

最近の白澤の検討事例

写真を探す煩わしさからの開放：自動タグ登録技術搭載
イベント写真の検索支援システム（β）

Webでのイベント写真閲覧にて、自動タグ登録技術により、
写真を探す煩わしさから開放

特徴

- ・ 写真販売業者様向け：自動タグ登録技術
 - ・ イベント写真購買者向け：興味有写真のサクッと検索支援技術
- タグ登録の内容例
画像処理技術や EXIF 情報を利用し、写真販売業者様の代わりに、写真の検索を支援するタグを登録
- ・人物の特徴（頭髪、アクセサリなど）
 - ・販売に向いていないと予想される特徴（白とび、黒つぶれなど）

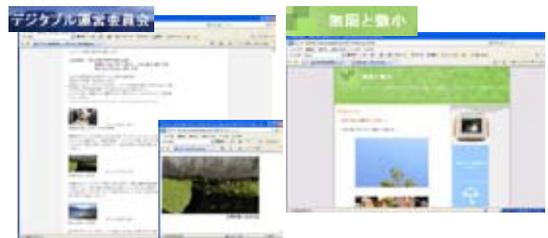
最後に白澤氏の検討事例として「顔の白飛びの印象について」のサンプルによる評価チェックを行った。



iPhone を手に発表する、白澤洋一会員

Blog

Blogの登場により、不特定多数の人物向けに写真を公開することが容易化



Blog で不特定多数に写真を公開することが容易になった

モバイル機器との連携



モバイル(iPhoneなど)との連携も始まっています



後ほど、デモさせていただきます。

モバイル（iPhone など）との連携も広がっている

婚礼向けWeb写真公開・販売サービス



新郎新婦がアルバムに掲載する写真を選ぶサービスがあります。（ワタベウェディング社 フォトセレクトWebサービスなど）

婚礼向け Web 写真公開・販売サービス



顔の白飛びの印象について、サンプルによる評価チェック

Photoshop 研究講座「モノクロ印刷の重ね刷り」

担当：平野正志 講師

通常の一部印刷では濃度などの深みに不満があり、重ねて印刷することを試みる。その際二度目の印刷は透明度を落とすなどして、濃度の変化などを検証した。

検証 1

画像をモノクロ化し、画像の半分を別レイヤーにして保存、半分で重ねた画像はさまざまに不透明度を変更する。元画像は 100%、モノクロで印刷し、重ねて半分の画像をパーセントを 30%、50%、100%などに変えて印刷。光沢紙による検証では、最高濃度の部分にインクの溜りが生じてしまい乾燥に時間がかかる。

マット紙のうち月光・レッドラベル（厚手画材用紙調）では、濃度が上がり黒の締まりが感じられずまずの出来上がり。多重印刷は光沢紙には向かないようだが、画材用紙や絹目調ではよい結果を得ている。

検証 2

重ねて印刷するモノクロモードをいろいろに変えてみる。初めの印刷を冷黒調で行い、次に%を落とした印刷では純黒調や温黒調を選んでみる。加えて重ね刷りの%を変えることで、さまざまな効果が得られそうだ。冷黒調、温黒調などを組み合わせたり、さまざまな方法が考えられる。重ね刷りの濃度によっても様々に組み合わせることが可能だろう。

検証 3

二重印刷から変形を試みる。まずモノクロで通常通り本印刷の後、モノクロのモードを変換し不透明度を薄くした画像で二度目の印刷をする。ここまでは通常の方法。薄い画像を重ねて印刷することで、トーンを出した印刷が可能になるが、全体への効果はあっても、白飛びに近いような濃度の薄い部分には大きな効果が期待できない。そこで、次に二度目に使用したレイヤーの諧調を反転し、明暗を逆転する。

白の部分に諧調が加わり、印刷で焼きこみを行うような結果となる。諧調の反転でも中間濃度にも影響があるため、ハイライト部分だけに影響を与えなければ部分選択などの方法もある。

まとめ

一度目、二度目、三度目の印刷のうち 2 度目 3 度目の印刷の濃度や色調によって大きく結果が異なるため、さまざまに試してみることが必要。組み合わせも無限と言え試行錯誤が必要だろう。

(コメントや意見の追加をお願いします)



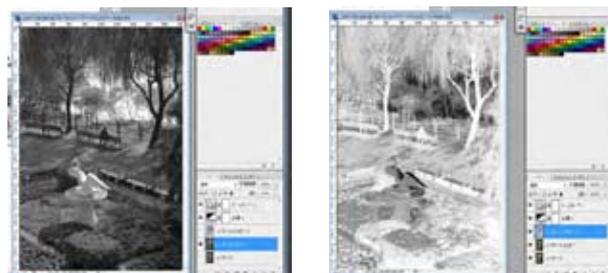
今月一枚：亀戸文化センター前公園での紅葉
(鈴木利男撮影)



平野正志 講師



画像をモノクロ化し、画像の半分を別レイヤーにして保存。半分で重ねた画像はさまざまに不透明度を変更する



二度目に使用したレイヤーの諧調を反転し、明暗を逆転する、暗部は白く明部は黒くなり、三度目の印刷ではより濃く印刷されることになる



さまざまに印刷されたサンプル